

## I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

### 1. 大阪樟蔭女子大学の建学の精神と基本理念

大阪樟蔭女子大学の「建学の精神」は、学園創立者である森平蔵の意志を反映する、「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成をめざす」という言葉で表され、現在に至るまで継承されている。

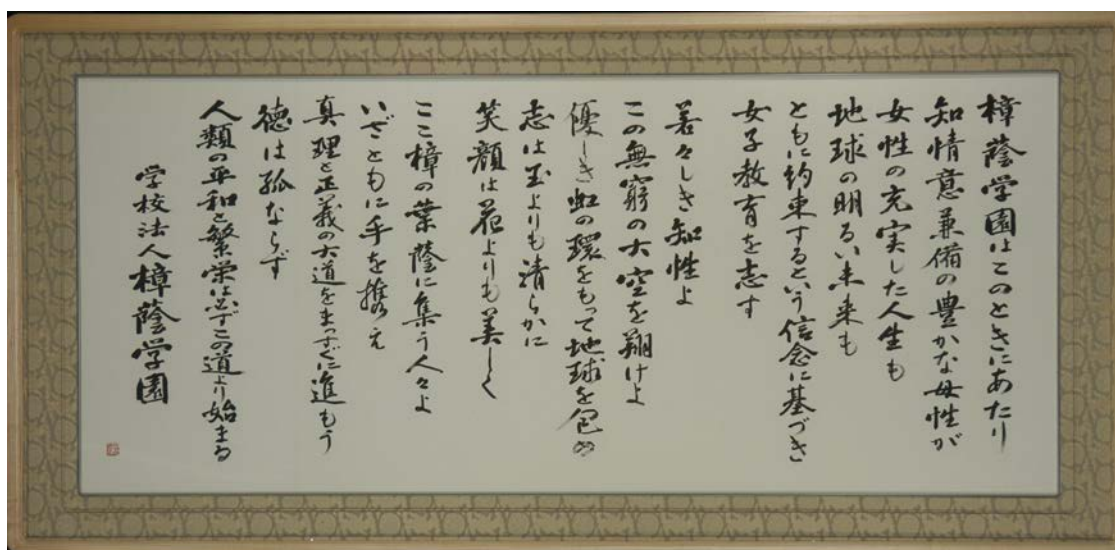
本学の前身である樟蔭高等女学校が設立された大正 6(1917)年当時、女子教育の状況は、大正デモクラシーの進展もあって高等女学校への進学率が急速に高まり、大変な入学難を呈していた。特に大阪では女子のための中・高等教育機関が少なく、進学志望の小学生は狭き門を突破するため、非常な受験勉強を強いられていた。実業家であった森平蔵は、こうした児童・生徒の心身発達の過程上、悪影響を及ぼしかねない不毛の受験勉強を憂い、さらに狭き門から生じる偏った秀才教育に異を唱えて、内容の充実した質の高い女子教育を推進するため、巨額の私財を投じて私立樟蔭高等女学校を設立した。

このような創立者の熱き思いを反映するように、樟蔭高等女学校では、当時の女子教育に手薄であった教養教育の充実を図り、高い教養を持ち一人の人間として真に成熟した女性を育成することを目的として、最高の教育環境と設備が整えられた。そして、その精神を踏まえ、大正 14(1925)年に当時女子教育としては最高の教育機関であった女子専門学校を設立、戦後の学制改革等を経て幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院からなる女子の総合学園として発展してきた。

本学は、いつの時代も「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成をめざす」という建学の精神の主旨を継承し、確固たる校風の熟成をめざしてきた。

平成 14(2002)年には、この建学の精神を再度確認し、以下のようなミッションステートメントを定めた。

図 I-1 ミッションステートメント



「樟蔭学園はこのときあたり、知情意兼備の豊かな母性が  
女性の充実した人生も、地球の明るい未来も  
ともに約束するという信念に基づき女子教育を志す

若々しき知性よ、この無窮の大空を翔けよ  
優しき虹の環をもって地球を包め

志は玉よりも清らかに、笑顔は花よりも美しく  
ここ樟の葉蔭に集う人々よ、いざともに手を携え  
真理と正義の大道をまっすぐに進もう

徳は孤ならず、人類の平和と繁栄は必ずこの道より始まる」

さらに平成 23(2011)年には、多様化し、変化のスピードが激しい現代社会を生きていくためにふさわしい女性としてのあり方を検討し、具体的な人物像として、次の 3 点を兼ね備えた人材を育成することを本学学部のミッションとして定めた。

- ①自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。
- ②堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身に付けた人。
- ③職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。

また、本学大学院人間科学研究科では、次のような人材を育成することをミッションとして定めた。

人間を多面的かつ深く探求するとともに、人間生活の質の向上に資する専門的能力を習得し、高度専門職業人として社会に貢献できる人。

本学では、今後とも創立者の建学の精神を核として、最高の教育環境の創造をめざし邁進していく。

## 2. 使命・目的

上記の建学の精神に基づき、本学の使命・目的については、大阪樟蔭女子大学学則並びに大阪樟蔭女子大学大学院学則 1 条において、次のように定めている。

大 学 「広く一般学科に関する知識を授けると共に、深く専門の学術技芸を教授研究して知性を磨き女性としての豊かな情操と高き品性とを養成するをもって目的とする」

大学院 「大阪樟蔭女子大学の教育理念に則り、学部教育の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を教授し、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うと共に、女性としての特性と人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする」

### 3. 大学の個性・特色

#### ・ 今日までの道のり

本学は、前身の樟蔭高等女学校設立から、平成 29(2017)年に創立 100 年を迎える。創立 100 年に向け、さらに充実した学生サポート体制、質の高い教育を実現すべく学部・学科の再編を行い、平成 27(2015)年 4 月より学芸学部・児童学部・健康栄養学部の 3 学部体制に移行した。同時に立地に関しても、奈良県香芝市の関屋キャンパスと東大阪市の小阪キャンパスを統合し、小阪キャンパスに資源を集中すべく全面リニューアルを実施、新たな歴史へとスタートを切った。

大阪樟蔭女子大学の歴史は、大正 6(1917)年に設置された樟蔭高等女学校に始まる。翌大正 7(1918)年に樟蔭高等女学校本科及び専攻科の第 1 回入学式を挙行、大正 11(1922)年に高等科を設置、大正 15(1926)年に樟蔭女子専門学校となった。向学心と希望にあふれる良家令嬢の学びの場として、当時では日本有数の女子教育を提供していた。

昭和 24(1949)年には大阪樟蔭女子大学学芸学部を開学、現在に至る基礎固めが行われた。時代は下り、昭和 62(1987)年に樟蔭女子短期大学人間関係科を関屋キャンパスに開設し、それまで以上に多様な女子教育を展開することになる。平成 13(2001)年には開学以来初となる大きな改組を行い、関屋キャンパスに人間科学部を設置、短期大学部との 2 学部体制になる。さらに、関屋キャンパスでは、平成 21(2009)年に第 2 次改組により人間科学部を解消し、児童学部、心理学部、短期大学部の 3 学部体制となった。

そして冒頭に述べた通り、平成 27(2015)年 4 月より、全学部・学科を小阪キャンパスに統合、学芸学部(国文、心理、国際英語、ライフプランニング、被服の 5 学科)、児童学部(児童学科)、健康栄養学部(健康栄養学科)の 3 学部 7 学科体制となった(現在、学芸学部にはインテリアデザイン学科があるが、平成 25(2013)年度より募集停止している)。

#### ・ 受け継がれる建学の精神

「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」創立者森平蔵の願いは、創立から 100 年経った現在においても色褪せることなく、このような時代だからこそ、より明確なものとなって教職員、学生に受け継がれている。

芥川賞作家で文化勲章受章者でもある田辺聖子氏は、本学前身の樟蔭女子専門学校国文科出身であり、本学の建学の精神を色濃く受け継ぐ卒業生の一人である。その偉業を称え一般に広く知らしめるべく、平成 19(2007)年に図書館内に設けられた田辺聖子文学館は、創立 90 年記念事業の一環として開館した。平成 20(2008)年より「田辺聖子文学館ジュニア文学賞」と称し、全国の中学生・高校生を対象とする文学賞を設けており、読書・文化活動の発展、向上に寄与していると同時に、本学の使命・目的を発信する機会ともなっている。

#### ・ 創立 100 年への想い

平成 27(2015)年現在までに行われたキャンパス整備の概要を述べる(図 I-2 に現在のキャンパス見取図を示す)。新たに建築されたのは、清志館、翔空館、100 年会館(体育館)の 3 棟である。まず各校舎の名称である。すでにお分かりの通り、これらはいずれも本学の

建学の精神及び建学の精神から導き出されたミッションステートメントの表現から採用されている。清志館はミッションステートメントの「志は玉より清らかに」から、翔空館は「この無窮の大空を翔けよ」から命名されている。100年会館はもちろん創立100年を記念しての名付けである。実はキャンパス整備を機に、大学内の他の建物についても、同様の命名を行っている。高智館、芳情館、堅志館がそうであるが、建学の精神である「高い知性と豊かな情操」、並びに自律した女性に必要な「堅い意志」にちなんでいる。

このような命名は、本学が建学の精神及びミッションステートメントを重んじ、大切に思っていることの表れである。創立100年を迎えるにあたり、改めて創立者の願いに思いを致し、常に身近に感じるために建物の名称に託しているのである。

次にそれぞれの建物の機能について述べる。「清志館」は、本学の使命・目的を達成するための環境を学生に提供するために作られた。「学生へのサポート」を目的にした5階建ての建物である。1階はサポートスクエアと称し、学生へ完全ワンストップサービスを提供している。平成26(2014)年度までは、さまざまなサービスが各所に点在しており、各学科の事務センターがコンシェルジュ的なサービスを行ってはいしたが、学生は必要に応じそれぞれの部署まで足を運ぶ必要があった。新たに誕生したサポートスクエアでは、巨大スペースに以下の三つの部門が置かれ、ワンストップサービスを可能にしている。また、建物内には十分な席とスペースがあり、教職員への相談はもちろん、学生同士が打ち合わせをしたり、自習したりすることができるのも大きな特長である。

- ① ラーニングサポート …専門のスタッフが学びや履修登録等学習全般を支援
- ② キャンパスライフサポート …クラブ活動や奨学金、下宿等学生生活全般を支援
- ③ キャリアサポート …資格取得やインターンシップ、就職活動を支援

2階は学生専用のセミナールーム5室を備え、授業の発表の準備、各種打ち合わせ、自習等に利用されている。3,4階は普通教室が配置され、5階は大教室として会議、説明会、イベント等に利用されている。

「翔空館」はキャンパスで最も高い10階建ての建物であるが、地域のシンボルタワーとしての役割を担っている。5階までは平成27(2015)年4月より学科から学部となった健康栄養学部の施設からなり、6階は主として初年次及び2年次学生の学士課程基幹科目を行う教室、7~9階が教員研究室、10階が大ホールとなっている。

最後にキャンパスの配置の特色について述べる。整備された新キャンパスには、上に述べた新築の校舎と並んで、100年前の校舎がそれほどの違和感なく配置されている。大正7(1918)年に建てられた木造建築の樟古館、昭和2(1927)年に建てられた記念館が正門近くに配置され、創立当初の雰囲気を醸し出している。樟古館は100周年記念資料室(本学の歴史を展示する施設)として活用していく予定である。記念館については、いまだに現役の教室として活用されている。

新築の校舎については、樟古館、記念館の形状をモチーフとして取り入れ、新旧の校舎が歩み寄り新たな歴史を踏み出すべくデザインされている。キャンパス整備にともない、樟古館に創立当時の庭園を再現し、清志館及び翔空館の前庭にあたる広大なキャンパスプラザに閑屋キャンパスのモニュメントを移設し、かつて学園内で憩いの空間として存在していた藤棚を復活させる等、樟蔭100年の歩みを新キャンパスに凝縮させ、来校者が期せずして建学の精神を体感できるように意図している。

# 大阪樟蔭女子大学

図 I-2 キャンパス見取図

